

オ ダイコンの採種技術

川岸・G. Salazar

1 目的

ダイコンの採種を平坦地で行う場合の技術体系を確立する。

2 方法

供試品種 スジャナ改良 CTCH-1

試験区の構成

1	6月播種・摘芯	栽植距離	1.2×0.3m
2	7月播種・摘芯	栽植距離	1.2×0.3m
3	8月播種・摘芯	栽植距離	1.2×0.3m
4	7月播種・無摘芯	栽植距離	1.2×0.3m
5	7月播種・摘芯	栽植距離	0.9×0.4m
6	7月播種・摘芯	栽植距離	0.9×0.3m
7	7月播種・摘芯	栽植距離	1.2×0.5m

試験規模及び連数 1区 50㎡・1連

耕種概要 慣行による。

3 調査項目

生育・抽苔・開花・採種・病害虫の発生状況

II 栽培法の確立

(a) 栽培体系の確立

(1) 育苗技術の改善

ア 育苗床の改善

工藤・Pariasca

1 目的

育苗床の改善が野菜類の生育・収量及び品質に及ぼす効果について検討する。

2 方法

供試品種 トマト・キャベツ

試験区の構成

- 1 畑土 100%
- 2 畑土 2/3 堆肥 1/3
- 3 畑土 1/2 堆肥 1/2
- 4 畑土 1/3 川砂 1/3 堆肥 1/3

耕種概要 畑土には60℃で10分間加熱した焼土を用いる。かん水には水道水を用いる。

トマトは挿木栽培する。その他は慣行による。

3 調査項目

生育及び収量・品質

ア 輪作による連作障害回避試験

前野・A. Salazar・G. Nunez

1 目的

主要野菜類の組み合わせによる輪作試験を行い、連作障害の回避、土壌保全及び土壌生産性に関する検討を行なう。

2 方法

対象作物及び品種

冬作 トマト Rio Grande・キュウリ Marketmore 76・エンドウ Azul・セルリー Golden Detroit・ニンジン Chantenay Red Core #5 (Chantenay Royal)・キャベツ Charlestown Wakefield・タマネギ Red Creole・トウモロコシ(Choclo) Chancayano・トウモロコシ(Amarillo) PM 204

夏作 トマト Rio GRANDE・キュウリ Marketmore 76・インゲン Canario PF 210-119・キャベツ Charleston Wakefield(Corazon de Buey)・ニンジン Chantenay Red Core # 5 (Royal Chantenay)・トウモロコシ(Choclo) Chancayano・トウモロコシ(Amarillo) PM 204

冬作	トマト連作 (トマト)	同輪作 (キュウリ) ・同輪作 (インゲン) ・ 同輪作 (キャベツ)
	キュウリ連作 (キュウリ)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (インゲン) ・ 同輪作 (キャベツ)
	エンドウ輪作 (インゲン)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (キュウリ) ・ 同輪作 (キャベツ)
	セルリー輪作 (キャベツ)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (キュウリ) ・ 同輪作 (インゲン)
	ニンジン連作 (ニンジン)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (キュウリ) ・ 同輪作 (インゲン) ・同輪作 (キャベツ)
	キャベツ連作 (キャベツ)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (キュウリ) ・ 同輪作 (インゲン)
	タマネギ輪作 (トマト)	同輪作 (キュウリ) ・同輪作 (インゲン) ・ 同輪作 (キャベツ)
夏作	トマト連作 (トマト)	同輪作 (キュウリ) ・同輪作 (エンドウ) ・ 同輪作 (セルリー) ・同輪作 (キャベツ) ・ 同輪作 (ニンジン) ・同輪作 (タマネギ) ・ 同輪作 (トウモロコシChoclo・Amarillo)
	キュウリ連作 (キュウリ)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (エンドウ) ・ 同輪作 (セルリー) ・同輪作 (キャベツ) ・ 同輪作 (ニンジン) ・同輪作 (タマネギ) ・ 同輪作 (トウモロコシChoclo・Amarillo)
	インゲン輪作 (エンドウ)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (キュウリ) ・ 同輪作 (セルリー) ・同輪作 (キャベツ) ・ 同輪作 (ニンジン) ・同輪作 (タマネギ) ・ 同輪作 (トウモロコシChoclo・Amarillo)
	キャベツ連作 (キャベツ)	同輪作 (トマト) ・同輪作 (キュウリ) ・ 同輪作 (エンドウ) ・同輪作 (セルリー) ・ 同輪作 (ニンジン) ・同輪作 (タマネギ) ・ 同輪作 (トウモロコシChoclo・Amarillo)
	ニンジン連作 (ニンジン)	

試験規模及び連数 1区 100m² (10×10m)・1連

耕種概要

冬作	トマト	3月下旬播種
	キュウリ	3月中旬播種
	エンドウ	4月中旬播種
	セルリー	3月中旬播種・6月中旬定植
	キャベツ	4月上旬播種・5月中旬定植
	ニンジン	4月中旬播種
	タマネギ	3月下旬播種・5月下旬定植
	トウモロコシ	3月下旬播種
夏作	トマト	10月下旬播種
	キュウリ	10月下旬播種
	インゲン	10月下旬播種
	キャベツ	9月下旬播種・10月下旬定植
	ニンジン	10月下旬播種
	トウモロコシ	10月下旬播種

3 調査項目

生育及び収量・土壌のpH及びEC

(3) 作型の改善

ア 水耕・礫耕による栽培法試験

工藤・Pariasca

1 目的

野菜類の水耕栽培及び礫耕栽培について試験する。

2 方法

供試作物 水耕栽培 メロン・レタス

礫耕栽培 メロン

耕種概要 発芽 定温器を使用して発芽の促進と安定を図る。

移植 スポンジに移植して初期生育を促進する。

定植 グリーンハウスの水耕施設及び礫耕施設に定植する。

施肥 みかど水耕1号を使用する。

N 10%・P 8%・K 23%・Mg 5%・Mn 0.1%・B 0.1%

3 調査項目

生育及び収量・品質

イ トマトの栽培期間の適応性に関する試験

工藤・Pariasca

1 目的

トマトの品種別による栽培時期の適応性について試験する。

2 方法

供試作物 トマト

耕種概要 慣行による。

3 調査項目

生育及び収量・品質

ウ スイートコーンの栽培時期の適応性に関する試験

工藤・Pariasca

1 目的

スイートコーンの栽培時期が生育・生態に及ぼす影響について試験する。

2 方法

供試作物及び品種 スイートコーン チャンカイノー・ディエンデムウ

耕種概要 2週間ごとに播種する。その他は慣行による。

3 調査項目

生育及び収量・品質

(4) 灌水技術の改善

ア 灌水法の比較試験

工藤・Gutierrez

1 目的

スプリンクラー灌漑法と畦間灌漑法を比較検討する。

2 方法

供試作物 エンドウ・ソラマメ・インゲン

耕種概要 スプリンクラー灌漑：一週間・50mm灌漑

畦間灌漑：一週間一回・慣行法による。

3 調査項目

生育及び収量・品質

(5) 農業資材の利用

ア カンレイシャ利用による栽培試験 1

工藤・J. Tanaka,

1 目的

カンレイシャ利用栽培が作物の生育、収量等に及ぼす効果について試験する。

2 方法

- 供試作物 メロン・レタス
 耕種概要 発芽 定温期を使用して発芽の促進と安定を図る。
 移植 スポンジに移植して初期生育を促進する。
 定植 カンレイシャハウスに定植する。

3 調査項目

生育及び収量・品質

イ カンレイシャ利用による栽培試験 2

工藤・J. Tanaka

1 目的

カンレイシャを利用して作物を栽培し、収穫後に剪定して、二次収穫の可能性について検討する。

2 方法

- 供試作物 ピーマン・ナス
 耕種概要 一次収穫後に剪定し、追肥して栽培を継続して、二次収穫を行う。その他は慣行による。

3 調査項目

生育及び収量・品質

ウ マルチ利用法試験

工藤・Pariasca

1 目的

野菜栽培におけるマルチ利用の効果について試験する。

2 方法

供試作物 ナス・ピーマン・メロン・レタス

試験区の構成

- 1 ビニールマルチ
- 2 藁被覆
- 3 無処理

3 調査項目

生育及び収量・品質

(8) 機械化体系の組み立て

ア トラクター利用による栽培技術の改善 1

工藤・Gutierrez

1 目的

トラクター利用による耕耘法及び耕深の改善が、野菜の生育、収量等に及ぼす効果について試験する。

2 方法

供試作物 ダイコン・ニンジン

試験区の構成

1	トレンチャー	耕深	50cm
2	リッパー	耕深	30cm
3	ボトムプラウ	耕深	25cm
4	ローターベーター	耕深	20cm

耕種概要 慣行による。

3 調査項目

生育及び収量・品質

イ トラクター利用による栽培技術の改善 2

工藤・Gutierrez

1 目的

トラクター利用による耕耘法の改善が野菜の生育・収量等に及ぼす効果について試験する。

2 方法

供試作物 トマト

試験区の構成

1	ボトムプラウ	表土反転	ハロー
2	デスクプラウ	表土半反転	ハロー
3	ローターベーター	表土攪拌	耕起

耕種概要 慣行による。

3 調査項目

生育及び収量・品質

(c) 病虫害防除技術の確立

(1) 主要病虫害の発生と生態

ア 主要害虫の発生予察の確立

大泰司・Oshiro

1 目的

主要害虫の発生活長・生育期間を調査し、発生予察・適期防除のための基礎資料を得る。

2 方法

- 1) 発生消長調査 誘蛾灯・黄色粘着トラップ・吸引粘着トラップによる捕獲種の同定と、上記方法にフェロモントラップを加えて年間を通じた各種害虫の発生消長を調査する。
- 2) 主要害虫の飼育試験 卵・幼虫・蛾期間・成虫の産卵数等を飼育により明らかにし、害虫の特性を解明する。
- 3) 標本・スライドの作成 主要害虫の標本を作成する。害虫の加害状況のスライドを作成し、研修・普及に用いる。

3 調査項目

上記方法に加えて気象条件を調査する。

イ 主要野菜の予察圃の設置

大泰司・Oshiro

1 目的

主要野菜に発生する害虫の発生時期・発生密度・加害状況を継時的に調査し、予察法・防除技術を確立するための基礎資料を得る。

2 方法

対象作物 カボチャ・キャベツ・エンドウ

試験区の構成

- 1 カボチャ・隔月播種 (殺虫剤散布区・無散布区)
- 2 キャベツ・5～8月毎月定植 (殺虫剤散布区・無散布区)
- 3 エンドウ・3～8月毎月播種 (殺虫剤散布区・無散布区)

試験規模及び連数

カボチャ	1区	140㎡・1連
キャベツ		50㎡・1連
エンドウ	1区	100㎡・1連

耕種概要 農薬散布以外は一般栽培に準じる。

3 調査項目

主要対象種 カボチャ：Diaphania・アブラムシ類・コナジラミ
 キャベツ：コナガ・ハイマダラノメイガ・アブラムシ類
 エンドウ：ハモグリバエ

主に上記の種を対象にして発生時期・密度及び天敵類を観察するとともに、黄色粘着トラップ・吸引粘着トラップ・フェロモントラップにより調査する。

ウ センチュウの発生状況調査

大泰司・Higaona Oshiro

1 目的

野菜生産センター圃場におけるネコブセンチュウによる土壌の汚染状況を調査し、センチュウ分布図を作成して、圃場の来歴とセンチュウ密度の関連を明らかにする。

2 方法

センター圃場の土壌を深さ別に採集し、ベールマン法によりセンチュウを分離する。圃場別・深さ別のセンチュウ密度を調査する。

調査地点の栽培歴を明らかにし、センチュウ密度との関係を解明する。

その他、センチュウ密度に関連すると思われる土壌条件を計測する。

3 調査項目

センチュウ密度等

エ 病害の発生実態調査

大泰司・Higaona

1 目的

Chancay-Huaralの野菜栽培地域において野菜病害の発生・被害状況を調査し、その病原菌を同定して主要病害とその被害の程度を明らかにする。

2 方法

調査地域 Chancayllo・Esquivel・Aucallama・La Huaca・Jesus del Valle・Esperanza・Huando

調査方法 季節ごとに農家圃場を巡回し、作型及び病害の発生・被害状況を調査する。被害株を研究室に持ち帰り、病原菌を同定する。

3 調査項目

上記以外にスライドを作成して研修業務に用いる。

オ 主要野菜の発生病害調査

大泰司・Higaona

1 目的

主要野菜に発生する糸状菌・細菌による病害を明らかにする。

2 方法

対象作物 カボチャ

試験規模及び連数 1区 1632㎡・1連

耕種概要 5～12月に毎月播種する。一般栽培法に準じる。

3 調査項目

土壌病原菌

生育時：発芽率・病害被害率・病徴・病原菌の同定・気象条件

収穫時：作物の収量

カ 主要野菜のウイルス病の解明

大泰司・Higaona Oshiro、

1 目的

主要野菜のウイルス病を同定するとともに、媒介虫・伝染源となりうる雑草を明らかにする。

2 方法

ウイルス病の同定 センター圃場で栽植されているカボチャ・トマト・トウガラシ・キュウリについてウイルス病株の病徴を観察して発生率を調査するとともに、汁液接種による生物検定によりウイルスを同定する。

ウイルス病媒介虫の調査 ウイルス媒介昆虫を採種し同定する。罹病株から健全株へのウイルス媒介が可能か検定する。

雑草のウイルス罹病性の検定 種子から育てた健全な雑草に対して、罹病野菜から伝染可能か否かを汁液接種により判定し、各種ウイルス病に対する罹病性を検定する。

3 調査項目

ウイルス病の同定・ウイルス媒介虫の調査・雑草のウイルス罹病性の検定

(3) 生態的防除法

ア 主要害虫に対する性フェロモンの利用

大泰司・Oshiro

1 目的

主要鱗翅目害虫に対して性フェロモンの利用方法を検討する。

2 方法

コナガ(*Plutella xylostella*)・*Diaphania nitidalis*・ハマダラノメイガ(*Helilla undaris*)に対し、処女雌・合成性フェロモンを用いた発消長調査方法を検討する。

イ カンレイシャハウスによる害虫の防除試験

大泰司・Oshiro

1 目的

カンレイシャハウス利用による害虫・ウイルス病の発生抑制効果を検討する。

2 方法

対象作物 メロン・トマト

試験区の構成

1 メロン：10月播種・カンレイシャハウス・露地無防除・露地防除

2 トマト：3月播種・カンレイシャハウス・露地無防除・露地防除

試験規模及び連数 1区 160㎡・1連

耕種概要 農薬散布以外は一般栽培に準じる。

3 調査項目

主要対象害虫 メロン：Diaphania・アブラムシ類・コナジラミ

トマト：アブラムシ類・コナジラミ

黄色粘着トラップによる成虫数調査・虫数調査・病害調査・被害調査・収量調査・品質調査

ウ シルバーテープによる害虫防除試験

大泰司・Oshiro

1 目的

シルバーテープによるハモグリバエ・アブラムシ類・コナジラミの防除効果を検討する。

2 方法

対象作物 トマト

試験区の構成 シルバーテープ処理・シルバーテープ無処理

試験規模及び連数 1区 100㎡・2連

耕種概要 一般栽培に準じる。必要に応じて殺虫剤を同時散布する。

3 調査項目

害虫数調査・ウイルス病発生調査

エ 輪作によるセンチュウ密度の抑制

大泰司・Higaona・Oshiro

1 目的

ネコブセンチュウの対抗植物であるマリーゴールド・クロタラリアを輪作の一環に加えることにより、センチュウ密度の抑制を図る。

2 方法

対象作物 トマト

試験区の構成

1 マリーゴールド→トマト

2 クロタラリア →トマト

3 トマト →トマト（トマト連作）

試験規模及び連数 1区 34㎡・3連

耕種概要

播種期 第一回 5月・第二回 10月

その他は一般栽培法に準じる。

3 調査項目

根の生育調査・被害度・土壌センチユウ密度

(4) 化学的防除法

ア 主要野菜の農薬散布試験

大泰司・Oshiro

1 目的

主要野菜の主要害虫に対する殺虫剤の効果を検討する。

2 方法

対象作物

エンドウ：ハモグリバエ

ソラマメ：ハモグリバエ

トマト：コナジラミ・アブラムシ類

ダイコン：ハイマダラノメイガ

ブロッコリー：アブラムシ類

キャベツ：コナガ

メロン：Diaphania

殺虫剤

エンドウ：Isoxathion・Diazinon・Acephate・Dimetoate・Thiometon・
Disulfoton（土壌施用）

ソラマメ：Isoxathion・Diazinon・Acephate・Dimetoate・Thiometon・
Disulfoton（土壌施用）

トマト：Buprofezin 他2薬剤

ダイコン：Permethrin・Methamidophos・Chlorfluazuron

ブロッコリー：Pirimicarb・Methamidophos・Methyldemeton

キャベツ：Methomyl・Methamidophos・Chlorfluazuron

メロン：3～4薬剤（未定）

上記薬剤を予定しているが変更も有り得る。

播種期、定植期

エンドウ：播種期 5月

ソラマメ：播種期 5月

トマト：播種期 7月

ダイコン：播種期 3月

ブロッコリー：定植期 6月

キャベツ：定植期 4月

メロン：播種期 11月

試験規模及び連数 1区面積 未定・3連

3 調査項目

害虫数調査・生育調査

イ 殺線虫剤によるネコブセンチュウ防除試験

大森司・Hiyama Oshiro.

1 目的

殺線虫剤によるネコブセンチュウ防除の効果を検討する。

2 方法

対象作物 トマト・メロン

試験区の構成 殺線虫剤 5薬剤（未定）・処理区及び無処理区

試験規模及び連数 1区 60㎡・3連

耕種概要 播種期 トマト 7月・メロン 9月、その他は一般栽培に準じる。

3 調査項目

生育時：発芽率・病害・根の生育状況

収穫時：根の被害度・センチュウ密度

(5) 総合的防除法

ア 主要病害虫の防除技術組立試験

大森司・Oshiro

1 目的

セルリーの主要害虫であるハモグリバエとアブラムシの被害をシルバーテープ・シルバーマルチ・殺虫剤を組み合わせることで回避する。

2 方法

対象作物 セルリー

処理 苗床：Acephate土壌混和＋シルバーテープ＋殺虫剤1回散布

Acephate土壌混和＋シルバーテープ

無処理

本圃：シルバーマルチ

殺虫剤1回散布

シルバーテープ

シルバーマルチ＋殺虫剤1回散布

シルバーテープ＋殺虫剤1回散布

無処理

試験規模及び連数 1区 14m²・2連

耕種概要 播種 3月・定植 5月

農薬散布以外は一般栽培に準じる。

3 調査項目

黄色トラップによる誘引調査・害虫密度調査・収量調査

(d) 施肥法の確立

(1) 作物別施肥法の適正化

ア 野菜類に対する施肥法試験

前野・A. Salazar・G. Nunez

1 目的

野菜類に対する肥料三要素の影響と窒素の施肥時期について検討する。

2 方法

対象作物及び品種

ダイコン Criollo・セルリー Golden Detroit

ニンジン Chantenay Red Core # 5 (Chantenay Royal)

試験区の構成

1 窒素全量基肥 2 窒素半量基肥 3 窒素 $\frac{1}{4}$ 基肥、 $\frac{3}{4}$ 2回追肥

4 無窒素 5 無リン酸 6 無カリ

7 無肥料

施肥要素量 (ha当たりkg) N 200kg P 200kg K 200kg

窒素追肥時期

ダイコン 播種後3週間及び5週間

セルリー 定植後3週間及び9週間

ニンジン 播種後3週間及び9週間

試験規模及び連数 1区 48m² (6×8m)・3連

耕種概要

ダイコン 播種 12月下旬

セルリー 播種 3月下旬・定植 6月中旬

ニンジン 播種 10月中旬

3 調査項目

生育及び収量

イ 野菜類に対する施肥量試験

前野・A. Salazar・G. Nunez

1 目的

野菜類に対する肥料三要素の適量について検討する。

2 方法

対象作物及び品種

タマネギ Red Creole

カリフラワ Snowball

キュウリ Marketmore 76

試験区の構成 (ポット当たり施肥要素量 g)

1	N	0	P	0	K	0
2	N	0	P	1.0	K	1.0
3	N	0.5	P	1.0	K	1.0
4	N	1.0	P	1.0	K	1.0
5	N	1.5	P	1.0	K	1.0
6	N	1.0	P	0	K	1.0
7	N	1.0	P	0.5	K	1.0
8	N	1.0	P	1.5	K	1.0
9	N	1.0	P	1.0	K	0
10	N	1.0	P	1.0	K	0.5
11	N	1.0	P	1.0	K	1.5

試験規模及び連数 1/2000アール・ポット・3連

耕種概要

タマネギ 播種 3月下旬・定植 6月上旬

カリフラワ 播種 4月上旬・定植 6月上旬

キュウリ 播種 9月中旬

3 調査項目

生育及び収量

(2) 要素障害 (欠乏・過剰) の診断と対策

ア トマトのアントシアン現象の究明 (有機物と磷酸の効果試験)

前野・G. Nunez・A. Salazar

1 目的

トマトに発生するアントシアン現象の原因を究明するため、有機物と磷酸の効果について検討する。

2 方法

対象作物及び品種

トマト Rio Grande

試験区の構成

1	無堆肥・無リン酸	2	同・P 100kg	3	同・P 200kg	4	同・P 300kg
5	堆肥 10トン・無リン酸	6	同・P 100kg	7	同・P 200kg	8	同・P 300kg

施肥要素量 (ha当たり)

リン酸 区名量・窒素 200kg・カリ 150kg・堆肥 10トン

試験規模及び連数 1区 40m² (5×8m)・3連

耕種概要 播種 3月下旬

3 調査項目

生育及び収量・アントシアンの発生状況

(3) 有機物施用技術

ア 厩肥施用量試験

前野・G.Nunez・A.Salazar

1 目的

厩肥の種類と施用量及び化学肥料の施用量の交互作用について検討する。

2 方法

対象作物及び品種

キャベツ Charleston Wakefield(Crespa)

試験区の構成

1	有機物無施用 無肥料	2	化学肥料単用、少肥	3	同・多肥
4	鶏糞 5トン・無肥料	5	同 少肥	6	同・多肥
7	鶏糞 10トン・無肥料	8	同 少肥	9	同・多肥
10	豚糞 5トン・無肥料	11	同 少肥	12	同・多肥
13	豚糞 10トン・無肥料	14	同 少肥	15	同・多肥
16	牛糞 10トン・無肥料	17	同 少肥	18	同・多肥
19	牛糞 20トン・無肥料	20	同 少肥	21	同・多肥

施肥要素量 (ha当たり)

少肥 N 100kg P 100kg K 100kg・多肥 N 200kg P 200kg K 200kg

有機物 区名量

試験規模及び連数 1区 48m² (6×8m)・2連

耕種概要 播種 4月下旬・定植 6月中旬

3 調査項目

No. 29

生育及び収量・土壌の三相分布

イ 緑肥作物の鋤込み試験

前野・G. Nunez・A. Salazar

1 目的

野菜類に対する緑肥作物の効果と化学肥料の施用量の交互作用について検討する。

2 方法

対象作物及び品種

トウモロコシ PM-212

ヒマワリ La Morina

クロタラリア Ica 産

カリフラワ Snowball

試験区の構成

緑肥作物 1 トウモロコシ 2 ヒマワリ 3 クロタラリア

施肥要素量 (ha当たりkg) N 100kg P 100kg K 100kg

カリフラワ

1 トウモロコシ跡・トウモロコシ無鋤込・無肥料	2 同・同・少肥	3 同・同・多肥
4 トウモロコシ跡・トウモロコシ鋤込・無肥料	5 同・同・少肥	6 同・同・多肥
7 ヒマワリ跡・ヒマワリ無鋤込み・無肥料	8 同・同・少肥	9 同・同・多肥
10 ヒマワリ跡・ヒマワリ鋤込み・無肥料	11 同・同・少肥	12 同・同・多肥
13 クロタラリア跡・クロタラリア無鋤込み・無肥料	14 同・同・少肥	15 同・同・多肥
16 クロタラリア跡・クロタラリア鋤込み・無肥料	17 同・同・少肥	18 同・同・多肥

施肥要素量 (ha当たりkg)

少肥 N 100kg P 100kg K 100kg 多肥 H 200kg P 200kg K 200kg

試験規模及び連数

緑肥作物 1区 244.4㎡ (9.4×26m)・2連

カリフラワ 1区 33.6㎡ (4.2×8m)・2連

耕種概要

緑肥作物 播種 1月中旬・収穫 4月中～下旬・鋤込み 4月下旬

カリフラワ 播種 4月下旬・定植 6月中旬

3 調査項目

生育及び収量・土壌の三相分布

(4) 塩類土壌対策

ア 湛水による塩類除去試験

前野・G. Nunez・A. Salazar

1 目的

畑地の水田化による土壌の塩類除去効果と、野菜類の生育及び収量に及ぼす効果について検討する。

2 方法

対象作物及び品種

水稲 コシヒカリ・シナノモチ・Viflor

ダイズ Jupiter・レタス White Boston・トマト Rio Grande

試験区の構成

夏作 1 水稲 2 ダイズ

冬作(野菜) 1 野菜・ダイズ跡・野菜(水稲無栽培・畑)

2 トウモロコシ・ダイズ跡・野菜(水稲無栽培・畑)

3 水稲跡・野菜(水田化畑)

試験規模及び連数 水稲 576㎡・ダイズ 168㎡・レタス 42㎡・トマト 42㎡・各1連

耕種概要 水稲 播種 12月上～中旬

ダイズ 播種 11月中旬

レタス 播種 4月下旬・定植 6月中旬

トマト 播種 9月上旬

3 調査項目

生育及び収量・土壌のEC及びpH

Ⅲ 野菜生産技術の展示

(b) 農家における展示

(1) 課題の設定

ア センター育成品種の展示

大泰司・Joege Tanaka

1 目的

当センターで育成したトマト・キュウリ・メロンのF₁品種の現地適応性を検討するため、農家圃場における展示栽培を実施する。

2 方法

展示地域 トマト 2地域

キュウリ 2地域

メロン 2地域

地域の営農状況等を勘案して協力農家を選定する。

展示栽培法 トマト 品 種：R × GF₁・Reo Grande(対象)

播種期：6月中旬・地這慣行

キュウリ 品 種：A × MF₁・Marketmore(対象)

播種期：8月中旬・地這慣行

メロン 品 種：NO.8×SPF₁

播種期：9月上旬・地這・2本仕立・1蔓2果どり

展示面積及び連数 各作物 500㎡・1連

IV 普及員及び選抜された農民の訓練

(a) 訓練コースの準備と教材の開発

(2) 研修スケジュールの作成

ア 研修委員会の開催によるスケジュールの作成

前野・V.Malca

1 目 的

研修施設の有効利用と研修コースの円滑な実施を図るためのスケジュールを作成する。

2 方 法

技術者コース（普及員コース・セクトリスタコース）・農業者コース・農業後継者コース・農村婦人コース及びセンター公開並びに技術発表会のスケジュールを作成し、研修委員会で討議し決定する。

3 内 容

実施時期及び実施期間の検討

(3) カリキュラムの作成

ア 課題設定及び指導内容の決定

前野・V.Malca

1 目 的

研修コースの円滑な実施を図るため、各研修コースにおける課題・指導方法その他の指導内容を決定する。

2 方 法

技術者コース（普及員コース、セクトリスタコース）・農業者コース・農業後継者コース・農村婦人コース及び技術発表会のカリキュラムを作成し、研修委員会で討議し決定する。

3 内 容

研修コース別研修課題別に、指導内容・指導方法及び担当者を検討する。

(4) 資料の収集

ア 資料の収集と分類、整理

前野・Jorge Tanaka

1 目 的

研修コース及び技術発表会の実施に必要な資料を収集・分類・整理し、カリキュラム及び教材の作成に資する。

2 方 法

農業省・大学・試験場その他の出版物・試験成績等を収集し、分類して整理する。

3 内 容

技術資料の収集・分類及び整理並びに内容の検討
センター試験成績の取りまとめ

(5) 教材の作成

ア 資料・テキストの作成

前野・V. Malca・Jorge Tanaka

1 目 的

研修コースの実施に必要な教材を作成する。

2 方 法

研修コース別に必要な教材の種類、内容等を研修委員会で討議し決定する。

3 内 容

教材の種類及び内容の検討
研修資料の作成
視聴覚教材の作成

(b) 訓練の実施

(1) 技術者の養成

ア 普及員及びセクトリスタコース

前野・V. Malca

1 目 的

普及員及びセクトリスタを対象として、野菜生産に係る基礎的、応用的技術を研修指導し、野菜生産技術の向上を図る。

2 方 法

普及員コース 年3回・各7日間

セクトリスタコース 年3回・各7日間

3 内 容

研修委員会で検討した課題及び内容について講義及び実習等を行う。

(2) 農業者の生産技術の向上

ア 農業者コース

前野・V.Malca

1 目 的

野菜生産農家を対象として野菜生産に係る基礎技術を研修指導し、野菜生産技術の向上を図る。

2 方 法

年12回・各2～3日間

3 内 容

研修委員会で検討した課題及び内容について、講義・実習及び圃場見学等を行う。

イ 農村婦人の営農生活研修

前野・V.Malca

1 目 的

農村婦人を対象として営農改善及び生活改善に係る技術指導を行い、農村における生活改善に資する。

2 方 法

年3回・各1日間

3 内 容

研修委員会で検討した課題及び内容について、講義・実習等を行う。

(3) 農業後継者の育成

ア 農業後継者コース

前野・V.Malca

1 目 的

農業後継者を対象として野菜生産に係る基礎技術を研修指導し、農業後継者の育成に資する。

2 方 法

年3回・各3日間

3 内 容

研修委員会で検討した課題及び内容について、講義・実習等を行う。

(4) 新技術の公開と演示

ア 技術発表会

前野・V. Malca

1 目的

技術発表会を開催し、プロジェクトの活動内容・試験研究成果等を紹介し、プロジェクトに対する関係機関及び地域住民の理解を深め協力を求める。

2 方法

年1回・2日間

3 内容

プロジェクト関係機関及び地域住民を対象として、プロジェクトの活動内容・試験研究成果等を紹介する。

イ センター公開

前野・Jorge Tanaka

1 目的

プロジェクトセンターを公開し、プロジェクトに対する関係機関・地域住民の理解を深め協力を求める。

2 方法

年1回・1日間

3 内容

プロジェクトの施設を公開し、圃場見学等を行う。

参考資料

5. 1990年度 プロジェクト運営計画

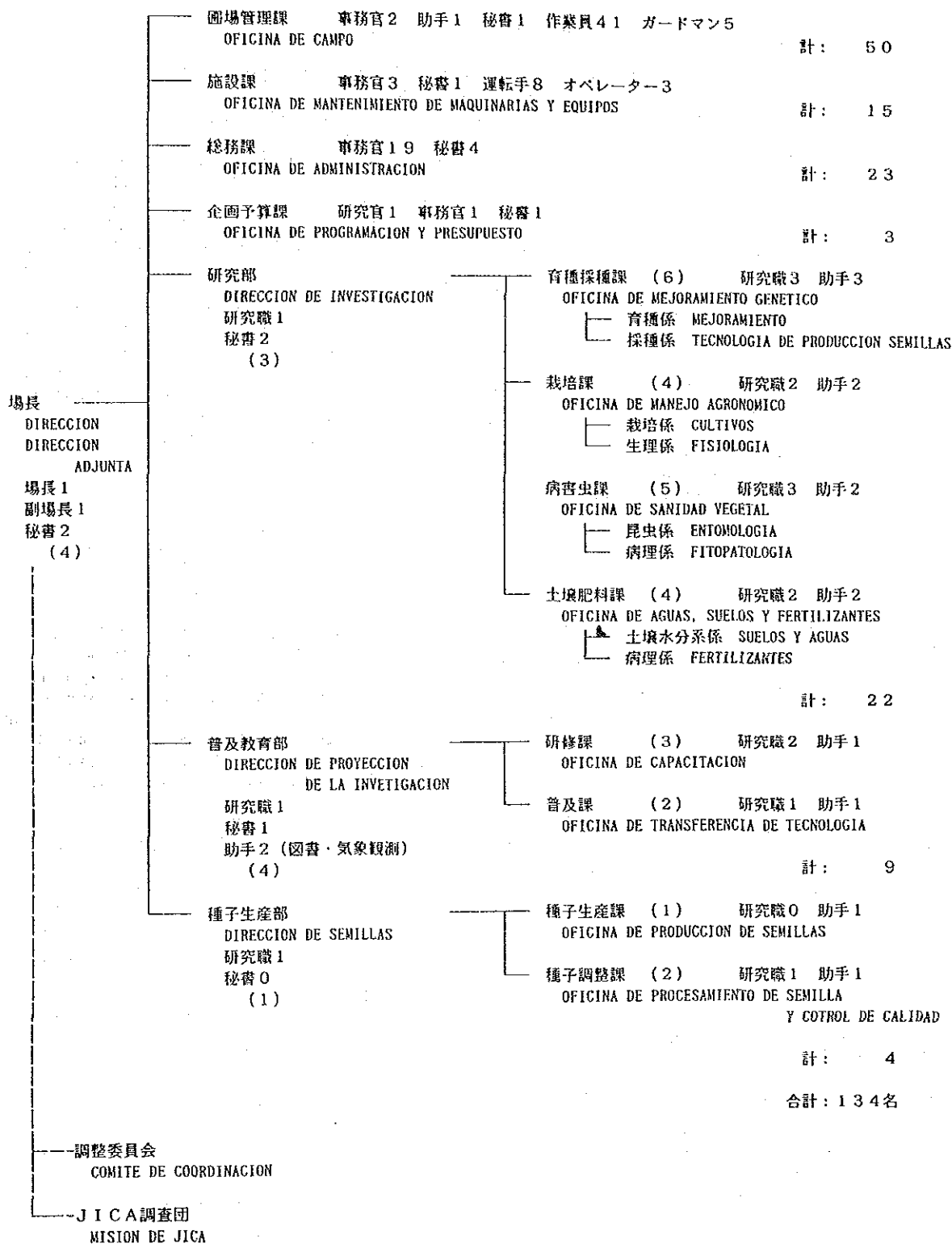
表 A

ペルー野菜生産技術センター計画 1990年度技術協力事業計画

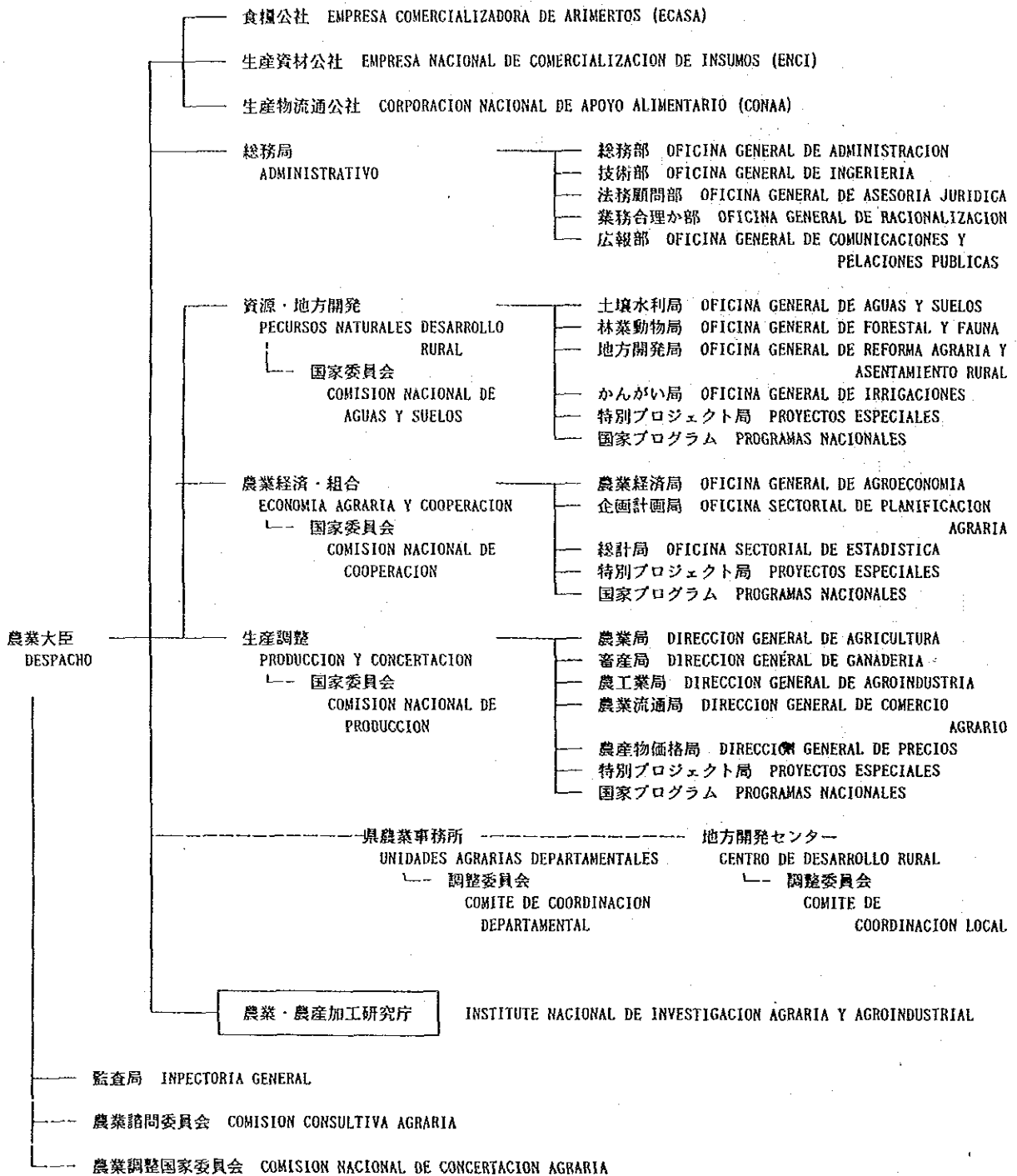
事業計画	1990 2	3	1990 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1991 1	1991 2	3	4	備 考
[専門家派遣計画]																
長期専門家 (リーダー) 任国外旅行				←				X								川岸幸男 (1986. 8. 31~1990. 8. 30) 川岸幸男 (1990. 5. 22~ 5. 27)
長期専門家 (リーダー) 長期専門家 (栽培)							X									宮川清忠 (1990. 8. 15~1991. 8. 14) 工藤 毅 (1989. 12. 25~1991. 4. 9)
長期専門家 (土壌肥料) 一時帰国					←	→										前野道雄 (1989. 6. 12~1991. 6. 11) 前野道雄 (1990. 6. 26~ 7. 23)
長期専門家 (病害防除)												X				大森司誠 (1988. 12. 12~1991. 4. 9)
長期専門家 (業務調整) 任国外旅行				←				X								増淵 清 (1986. 8. 10~1991. 4. 9) 増淵 清 (1990. 5. 2~ 5. 7)
リーダー会議 調整員会議	←														←	(1991. 2. 27~1991. 3. 7) (1990. 7. 1~1990. 7. 8)
短期専門家																
野菜の種子生産 (優先順位①)				←	X	→										野菜種子生産技術の体系化・野菜種子の調整 販売
野菜の育種 (優先順位②)				X												抵抗性品種の組み合わせ育種と検定
病害防除 (優先順位③)				←	X	→										主要野菜の発生病害調査、 立枯病の原因解明・対策
野菜の生理 (優先順位④)				X												野菜の生理生態、生育障害対策
農業機械 (優先順位⑤)				X												機械の保守管理・使用法指導、機械化作業体系 研究指導
普及訓練 (優先順位⑥)				X												
[研修員受け入れ計画]																
89年度 Augusto Montelo																雑草及び病害虫防除 (1990. 2. 26~1990. 12. 13) (野菜茶業試験場、茨城県園芸試験場)
Cesar Apolitano																野菜の育種 (1990. 3. 5~1990. 11. 27) (野菜茶業試験場、カネコ種苗、 筑波農業研修センター)
Edmund Catacora																技術者研修の手法、包蔵指導法 (神奈川県農業試験場、沖縄研修センター) (1990. 2. 26~1991. 2. 8)
90年度 Consuelo Higaona			A2.3	X												野菜の病理 (野菜茶業試験場、農業環境技術研究所)
Jorge Tanaka Nakamacho			X													野菜生産技術・普及方法 (神奈川県園芸試験場、沖縄研修センター)
Armando Valencia Legua			X													野菜の生産技術 (筑波農業研修センター)
Jose Tasayco				X												野菜の栽培 (筑波農業研修センター)
[機材供与計画]																
89年度 本邦調達			発													(1990. 5. 7 プロジェクト到着 1990. 5. 23 検収異常なし)
90年度 本邦調達 45000千円					A4	X										90年 8月仕様書作成 A4 form 接到 (1990. 5.) 1~2 月着
現地調達 なし																
[調査団派遣]																
エバリュエーション							X									(1990. 11. 26 ~1990. 12. 8) 乾括・野菜種子生産・野菜の育種・普及研修・ 業務調整
[ローカルコスト負担事業]																
中堅技術者養成対策費 3600千円																実施時期調整中
現地セミナー開催費 400千円			X	○												(1990. 7. 6) 送金済み
現地業務費 4044千円																一般現地業務費 2244千円 農林水産業協力現地研究費 1800千円
現地業務費臨時支給 1120千円			X	○												農林水産業協力現地研究費 送金済み
生活環境整備費 千円					X											

X: 申請 ○: 送金

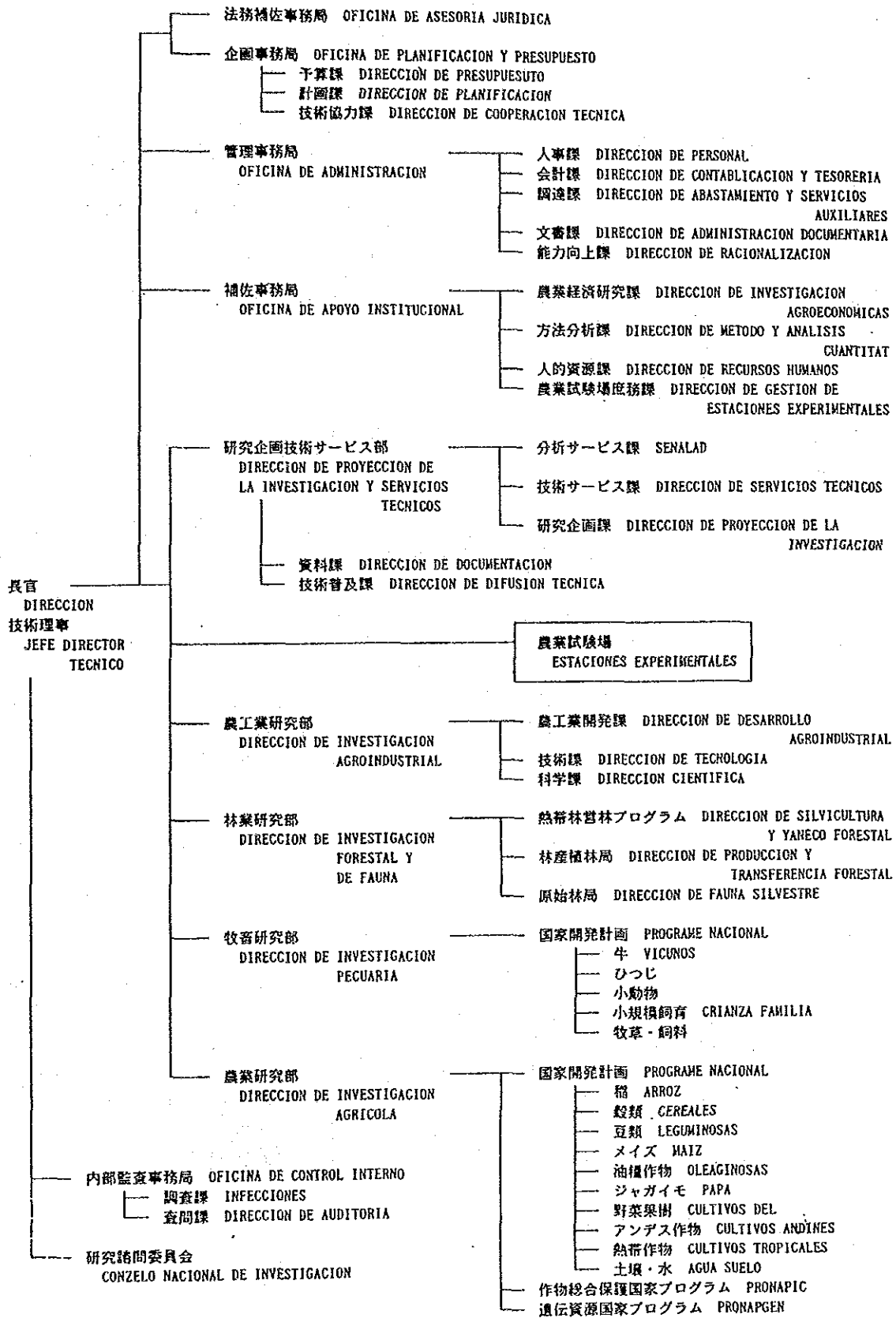
6. ワラル野菜研究研修センター組織図



7. ペルー共和国 農業省組織図 MINISTRO AGRICULTURA



8. INIAA (農業省 農業・農産加工研究庁) 組織図



9. プロジェクト実施にかかる経緯

参考資料

[野菜流通改善計画プロジェクト]

昭和56年3月～昭和58年9月
(1981) (1983)

野菜流通改善計画 プロジェクト方式技術協力実施

昭和58年9月
(1983)

野菜流通に関する最終報告書の提出（農業省農産加工流通総局へ）

昭和58年12月
(1983)

上記最終報告書の内容に基づく第2段階の技術協力実施についてペルー側より要請

[新プロジェクト形成]

昭和59年7月
(1984)

上記要請については実施に移しえない旨、ペルー側に正式通知

昭和59年7月
(1984)

野菜分野における他の技術協力プロジェクトの実施可能性についてペルー側より調査団の派遣を要請

昭和59年10月
(1984)

コンタクト調査団の派遣

※野菜生産技術に分野を限定し、技術協力の実施可能性について調査・協議を行なうこととした。

調査期間；昭和59年10月19日～10月29日

調査団員；田内 堯（JICA 農開部長）

森崎育夫（農水省食品流通局野菜振興課）

昭和60年3月
(1985)

（ペルー国大統領選挙）

[野菜生産技術センター計画]

昭和60年4月
(1985)

事前調査団の派遣

※技術協力プロジェクトのフレームワーク、無償資金協力についての協議、実施体制の確認等を行なった。

調査期間；昭和60年4月10日～4月24日

調査団員；西 貞男（社団法人日本施設園芸協会会長）

安井秀夫（農水省野菜試験場施設栽培部）

芦沢和郎（農水省経済局国際協力課）

青木正志（JICA農開部農技協課）

昭和60年7月
(1985)

（新政権 発足）

- 昭和60年10月
(1985) 長期調査員派遣
※本格的協力実施準備のための資料収集、調査
調査員；片平秀雄（JICA特別囑託）
昭和60年10月6日～12月6日
川岸幸男（福井県農業改良普及所所長）
昭和60年10月6日～11月11日
- 昭和61年1月
(1986) 野菜栽培訓練センター計画建設に関する無償資金協力要請
- 昭和61年3月
(1986) 実施協議調査団の派遣
※討議議事録の署名、交換
調査期間；昭和61年3月29日～4月9日
調査団員；土屋晴男（JICA農開部長）
太田保夫（農水省野菜試験場栽培部長）
水田精一（農水省経済局国際協力課）
土生幹夫（JICA農開部農技協課）
- 昭和61年6月
(1986) Ing. Rodolfo MasudaM.（プロジェクトダイレクター）研修受入れ
- 昭和61年8月
(1986) 実施設計調査団の派遣
※モデルインフラ（かんがい水施設、圃場の整備、付帯施設等）の設計
調査期間；昭和61年8月3日～9月13日
調査団員；小川武士（農水省北陸農政局土地改良事業所）
川上 徹（JICA農開部農技協課）
進藤澄雄（内外エンジニアリング㈱）
小石二男（内外エンジニアリング㈱）
- 昭和61年8月
(1986) 長期専門家の派遣
片平秀雄（JICA特別囑託；昭和61年8月10日出発）
増淵 清（JICA特別囑託；昭和61年8月10日出発）
寺神戸曠（JICA職員；昭和61年8月31日出発）
川岸幸雄（元福井県職員；昭和61年8月31日出発）
富永勝廣（JICA特別囑託；昭和61年8月31日出発）
- 昭和62年1月
(1987) 計画打ち合わせ調査団の派遣
※プロジェクト5か年間計画及び1987年度計画策定にかかる協議
調査期間；昭和62年1月25日～2月7日
調査団員；太田成美（（社）日本施設園芸協会常務理事）
東屋邦輔（福井県農林水産部専門技術員）
柴野和夫（農林水産省野菜・茶業試験場）
浅野 哲（JICA農開部農技協課）
- 昭和62年1月
(1987) モデルインフラ整備事業 施行管理専門家派遣
進藤澄夫（内外エンジニアリング㈱；
昭和62年1月25日～7月4日）

昭和62年2月2日
(1987)

第1回合同委員会

昭和62年3月
(1987)

モデルインフラ工事着工

昭和62年3月
(1987)

基本設計調査団の派遣

※野菜生産技術センター計画の基本的施設の必要性、要請内容、施設設計について協議

調査期間；昭和62年3月31日～4月11日（官ベース）

昭和62年3月31日～4月25日（コンサル）

調査団員；西 貞男（社）日本施設園芸協会会長）

浅野 哲（JICA農開部農技協課）

行富誠一（株OAC設計）

松田 力（株OAC設計）

日野 勝（株OAC設計）

竹村 慎男（株OAC設計）

磯塚隆久（株OAC設計）

中島清也（株OAC設計）

昭和62年7月
(1987)

モデルインフラ工事完工

昭和62年7月
(1987)

無償資金協力ドラフト説明調査団の派遣

昭和62年10月
(1987)

1988年度試験設計会議

昭和62年11月
(1987)

短期専門家の派遣

森 義夫（採種技術；福井県立短大）

多賀辰義（土壌診断；北海道立上川農業試験場；

昭和62年11月15日～2月12日）

中垣至郎（害虫防除；茨城県園芸試験場；

昭和62年11月29日～2月26日）

昭和62年11月
(1987)

巡回指導調査団の派遣

※1988年度の試験、研究及び普及計画にかかる検討・協議

調査期間；昭和62年11月29日～12月11日

調査団員；太田成美（社）日本施設園芸協会常務理事）

穴戸良洋（農林水産省野菜・茶業試験場）

天野雅猛（農水省農蚕園芸局普及教育課）

浅野 哲（JICA農開部農技協課）

昭和62年12月
(1987)

組織改正・統合の法令発令

※本計画実施機関（INIPA）及び林野庁（INFOR）、
農産加工振興庁（INDA）の3庁の統合

- 昭和63年1月 (1988) 上記法令により、農業・農産加工研究庁 (I N I A A) 正式に発足
- 昭和63年2月 (1988) **第2回合同委員会**
- 昭和63年5月 (1988) 無償資金協力大蔵省説明
- 昭和63年7月 (1988) **プロジェクトセミナー開催**
- 昭和63年8月 (1988) 長期専門家帰国
寺神戸曠 (～昭和63年8月30日)
富永勝廣 (～昭和63年9月6日)
チームリーダー交替
- 昭和63年9月 (1988) **野菜生産技術センター建設計画 (無償資金協力) にかかる口上書交換 (E/N締結)**
短期専門家の派遣
芹沢暘明 (抵抗性品種育成; カネコ種苗㈱);
昭和63年9月26日～12月16日)
- 昭和63年11月 (1988) 短期専門家派遣
今村和夫 (害虫防除; 福井県植物防疫協会);
昭和63年11月7日～2月3日)
- 昭和63年11月 (1988) 野菜生産技術センター建設計画 (無償資金協力) にかかる工事入札
- 昭和63年12月 (1988) 長期専門家の派遣
大泰司誠 (農林水産省野菜茶業試験場茶栽培部);
昭和63年12月12日出発)
- 平成元年1月～2月 (1989) 農林業プロジェクトチームリーダー会議
- 平成元年2月 (1989) 野菜生産技術センター建設計画 (無償資金協力) にかかる工事着工
- 平成元年2月～3月 (1989) 巡回指導調査団の派遣
※平成元年度の試験、研究及び普及計画にかかる検討、協議
調査期間; 平成元年2月18日～3月2日
調査団員; 山口武夫 (農水省熱帯農業研究センター)
田中 清 (農水省野菜・茶業試験場)
鈴木伸男 (農水省農蚕園芸局普及教育課)
浅野 哲 (J I C A 農開部農技協課)

- 平成元年6月
(1989) 長期専門家の派遣
前野道雄(元・神奈川県職員;平成元年6月12日出発)
- 平成元年12月
(1989) 野菜生産技術センター建設計画(無償資金協力)にかかる工事竣工
- 平成元年12月
(1989) 短期専門家派遣
桜井文海(農業機械;筑波国際農業研修センター囑託
平成元年12月10日~平成2年1月28日)
井上邦夫(採種技術;筑波国際農業研修センター囑託)
平成元年12月19日~平成2年2月9日)
- 平成元年12月
(1989) 長期専門家の派遣
工藤 巖(元・JICA専門家
(農業改良普及(バングラディッシュ)
農林開発(ザンビア))
;平成元年12月25日出発)
- 平成2年2月
(1990) 短期専門家派遣
清水達夫(発生病害調査;鳥取県倉吉農業改良普及所
平成2年2月1日~平成2年4月1日)
大城 閑(野菜生理;福井県立短期大学助教授
平成2年2月16日~平成2年5月1日)
- 平成2年3月
(1990) 本巡回指導調査団の派遣
※協力投入実績の調査検討、今後の計画の見直し・再検討
調査期間;平成2年3月19日~3月31日
調査団員;崎野信義(JICA農開部長)
古谷茂貴(農水省野菜・茶業試験場久留米支場)
真田光明(農水省農蚕園芸局普及教育課)
小林伸行(JICA農開部畜産開発課)

10. カウンタパート配置状況表及び受け入れ研修員の一覧表

1990. 2. 28現在

番号	カウンタパート氏名	職名	配属年月日	専門分野	学歴	指導専門家	研修受入分野(期間)	備考
1	NILDA ROJAS BOLIVAR	プロジェクトダイレクター ワラル野菜研究研修 センター所長	1989年12月29日	プロジェクト 運営	Catolica大学 法学部	川岸	一般研修 1990. 3. 30. ~ 4. 15.	INIAA 職員
・企画予算課								
2	DILAM TEJADA FERNANDEZ	F-3 企画予算課長	1989年12月15日	企画・予算	PEDRO LUIZ GAYO 大学 農学部	増淵		INIAA 職員
・圃場管理課								
3	ABNER BERTIS	F-3 圃場管理課長	1990年2月5日	圃場管理	PEDRO LUIZ GAYO 大学 農学部	工藤		INIAA 契約職員
・施設機械維持管理課								
4	ARTURO PAREDES DAVILA	F-3 施設機械維持管理課長	1990年1月1日	機械維持管理	国立工科大学	工藤		INIAA 契約職員
5	JUSTINIANO GUTIERRES	P-C 農業機械係長	1989年12月20日	農業機械	LA MOLINA 農科大学	工藤		"
・総務課								
6	CEASAR ODICIO ASAYAC	F-3 総務課長	1990年3月6日	総務	SAN MARTINDE PORRES 大学 経営学	増淵		INIAA 職員
○研究部								
7	CESAR APOLITANO SANCHES	研究官 F-5 研究部長	1988年10月31日	育種・採種	LA MOLINA 農科大学	川岸	個別C/P研修 1990. 3. 5. ~ 1990. 11. 27.	INIAA 職員
・育種採種課								
8	GENARO SALAZAR NEDO	研究官 P-C 育種採種課長	1986年1月1日	栽培・育種	LAMBAYEQUE大学 農学部	川岸	個別C/P研修 1988. 2. 2. ~11. 26.	INIAA 職員

1990. 2. 28現在
・育種採種課 (つづき)

番号	カウンタパーバート氏名	職名	配属年月日	専門分野	学歴	指導専門家	研修受入分野 (期間)	備考
9	ARMAND VALENCIA LEGUA	研究官 P-C 育種係長	1990年2月16日	栽培	SAN LUIZ CONZACA ICA 大学 農学部	川岸	個別C/P研修希望 1991. 2. . ~11.	INIAA 契約職員
10	MABEL NANSI MARCELO	研究官 育種係 (バイテク)	1990年1月1日	栽培	LA MOLINA 農科大学	増淵		"
11	JOSE TASAYCO CARBAJAL	助手 (テクニコ) T. A. G- B-II	1987年11月1日	栽培・採種	CHINCHA 農業高校 卒	川岸	個別C/P研修希望 1991. 2. . ~1.	INIAA 契約職員
・栽培課								
12	LEONCIO NONTOL	研究官 F-3 栽培課長	1987年2月6日	栽培	CAJAMARCA 大学 農学部		個別C/P研修 1989. 3. 9. ~ 1990. 1. 12.	INIAA 職員
13	JUAN PARIASCA TANAKA	研究官 P-D 生理係	1989年12月15日	生理	LA MOLINA 農科大学	工藤		INIAA 契約職員
・病虫害課								
14	AUGUSTO MONTERO	研究官 F-3 病理昆虫課長	1987年2月6日	害虫・雑草	HUANUCO 大学農学 LA MOLINA 修士	大森司	個別C/P研修 1990. 2. 26. ~12. 18.	INIAA 職員
15	OLGA OSHIRO OKADA	研究官 P-D 昆虫係長	1990年1月5日	昆虫	SAN MARCOS 大学 農学部	大森司		INIAA 契約職員
16	CONSUELO HIGAONA	研究官 P-A 病理係長	1990年2月1日	病理	LA MOLINA 農科大学		個別C/P研修希望 1991. 2. . ~11.	INIAA 職員
・土壌肥料課								
17	GARY NUNEZ CHENG	研究官 F-3 土壌肥料課長	1987年2月6日	土壌水分系	LA MOLINA 農科大学修士	前野	個別C/P研修 1989. 3. 9. ~ 1990. 1. 12.	INIAA 職員

1990. 2. 28現在
・土壌肥料課 (つづき)

番号	カウンターパート氏名	職名	配属年月日	専門分野	学歴	指導専門家	研修受入分野 (期間)	備考
18	ABEL SALAZAR	研究官 P-C 肥料係長	1987年11月1日	肥料	LA MOLINA 農科大学	前野	個別C/P研修 1989. 3. 9. ~ 1990. 1. 12.	INIAA 職員
○普及教育部								
19	EDMOND CATAFORA PINAZO	研究官 F-4 普及教育部長	1989年3月6日	研修	LA MOLINA 農科大学修士	前野	個別C/P研修予定 1990. 2. 26. ~ 1991. 2. 8.	INIAA 職員
・研修課								
20	VICTOR MALCA BARBA	普及官 F-3 研修課長	1986年10月17日	研修	CATOLICA大学 農学部	前野	個別C/P研修 1988. 3. 15. ~10. 29.	INIAA 職員
・普及課								
21	JORGE TANAKA	普及官 F-3 普及課長	1990年1月3日	普及	LA MOLINA 農科大学	大森司	個別C/P研修希望 1991. 2. . ~12.	INIAA 契約職員
・種子生産部								
22	GONZALO CAMPOS DIAZ	研究官 F-4 種子生産部長	1989年12月15日	種子生産	CATOLICA大学 農学部	工藤		INIAA 職員
○研修員受け入れにより研修したものの現在はC/Pでない者								
	RODOLF MASUDA	プロジェクトディレクター	1986年1月1日	プロジェクト 運営	LA MORINA 農科 大学	川岸	個別C/P研修 1986. 6. 3. ~ 1988. 7. 2.	INIAA 補佐 事務局長
	JUSTINO VERASQUES	研究官	1986年10月17日	土壌肥料			個別C/P研修 1987. 9. 14. ~ 1987. 10. 9.	INIAA LA MORINA 農業試験場 土壌肥料 部長

1.1. 既供与機材と利用管理状況リスト

No.1

(1) 車輛類及び一品又は一式の単価：160万以上の機材

(1990年2月28日現在)

供 年	番 号	機材名(メーカー名・型式)	価 格	数 量	利用(保管)場所	利用状況	管理状況	備 考(特記事項)
61年	1	車輛(トヨタ・コロナ・バンタイプ)	2,280,000	1台	ワラル野菜研究センター	A	A	TG-1386
"	2	車輛(トヨタ・コロナ・バンタイプ)	2,280,000	1台	"	A	A	TG-1487
"	3	車輛(トヨタ・コースター・マイクローバス)	2,780,000	1台	"	A	A	UI-7397
"	4	車輛(トヨタ・ランドクルーザー)	1,830,000	1台	"	A	A	RQ-5327
"	5	農業機材(トラクター・クボタ 4050DT)	4,000,000	1台	"	A	A	
"	6	水中ポンプ(エバラ S0BHS)	2,100,000	1セット	"	A	A	モデルインフラ工事機材
"	7	加圧ポンプ(エバラ SOMS3M)	3,700,000	1セット	"	A	A	" " "
62年	8	車輛(トヨタランドクルーザー)	1,940,000	1台	"	A	A	RQ-6242
"	9	車輛(ニッサンキャブスター)	1,330,000	1台	"	A	A	OQ-2603
"	10	農業機械(トラクタークボタ L245DT)	1,650,000	1台	"	A	A	
"	11	農業機械(トラクタークボタ 7030DT)	4,450,000	1台	"	A	A	
"	12	ワードプロセッサキーボード CW-80S	2,140,000	1台	"	A	A	
63年	13	車輛(ミツビシモンテロ 2600cc)	2,756,000	2台	"	A	A	RQ-7375、RQ-7376
"	14	車輛(ミツビシピックアップトラック)	1,297,000	1台	"	A	A	OQ-5656
"	15	コピー機リコー FT-4480 ソーター付	1,820,000	1台	"	A	A	
"	16	マニエアルスプレッダー 8.5㎡	2,460,000	1台	"	A	A	

(2) 一品又は一式の単価10万以上～160万円未満

No. 2-1
(1990年2月28日現在)

供与年度	機 材 名 (規 格・能 力)	供与数	処分数	現存数	利用状況	管理状況	処 分 理 由 等
61年	顕微鏡 オリンパス VMZ-45	1	0	1	A	B	
"	P Hメーター ホリバ DHP-22	1	0	1	B	B	
"	E Cメーター ホリバ DS-7	1	0	1	B	B	
"	コービ機 キャノン NP-155	1	0	1	A	A	
"	冷蔵庫 Mae:SA.1000lit	1	0	1	A	A	
"	根群調査器 梶 52cm・5cm 各1	2	0	2	B	B	
"	昆虫予察灯 MT-2・220V/60UZ・イケダ	3	0	3	A	A	
"	カメラ ニコン F-3・50mm・F-1.4	1	0	1	A	A	
"	全殿式土壌分析器 FP-200	1	0	1	B	B	
"	電子式上皿天秤 FX-300・FX-3000	2	0	2	A	A	
"	ビデオカメラセット ソニー NV-U21	1	0	1	C	B	研修コース技術発表等に集中して使用する
"	モニターテレビ TL-AL2600NT ソニー	1	0	1	C	B	
"	ビデオフラッシュユニット ソニー	1	0	1	C	B	
"	スライドプロジェクター エルモ スクリーン付	1	0	1	C	B	
"	百葉箱 イスズ 3-1640-03	1	0	1	A	A	
"	自動雨量計 イスズ 3-1561-01	1	0	1	A	A	

供与年度	機 材 名 (規 格・能 力)	供与数	処分数	現有数	利用状況	管理状況	処 分 理 由 等
61年	自動地温計 イスズ 3-1154-07	1	0	1	A	A	
"	日照計 イスズ 3-1610-02	1	0	1	A	A	
"	日射計 イスズ 3-1660-01	1	0	1	A	A	
"	蒸散計 イスズ 3-1535-01	1	0	1	A	A	
"	乾燥機 ヤマト DS-64	1	0	1	A	A	
"	顕微鏡 ニコン YF-11	1	0	1	A	A	
"	顕微鏡写真撮影機器 ニコン PFX-35	1	0	1	B	B	
"	PHメーター ホリバ F-8・S/C 702040E	1	0	1	B	B	
"	ECメーター ホリバ DS-8・S/L 51053710E	1	0	1	B	B	
"	純水製造装置 ヤマト WG-25	1	0	1	A	A	
"	パーソナルコンピュータアップル JM-2503セット	1	0	1	A	A	
"	電圧安定器 マツヤマ SVC-1010A	1	0	1	A	A	
"	トクタ-用ブレースタ-DK-10D クボタ 40SODT 用	1	0	1	A	A	
"	ディスクブラウ NDP-262-C ニップロ "	1	0	1	B	B	
"	ディスクブラウ MTH-1824B ニップロ "	1	0	1	B	B	
"	コピー機 シャープ SF8600 (現地調達)	1	0	1	A	A	

供与年度	機材名(規格・能力)	供与数	処分数	現存数	利用状況	管理状況	処理由等
61年	小型冷蔵庫 フィリップス 12p3 (現地調達)	5	0	1	A	A	
"	発電機 15KW・DIM-156T (モデルインフラ)	1	0	1	A	A	
"	土壌硬度計 Dik-5520 (多賀短專携行機材)	1	0	1	B	B	
"	ワープロ NEC、ブンゴウ Mini-7 (森短專携行機材)	1	0	1	A	A	
62年	ジェネレーター スズキ SV1800 (現地調達)	1	0	1	A	A	
"	カルチベーター4連式 (現地調達)	1	0	1	B	B	
"	大型冷蔵庫 1000lit、Mal.SA (現地調達)	1	0	1	A	A	
"	大型冷蔵庫 1000lit、Mal.SA (現地調達)	1	0	1	A	A	
"	トレーラー スター D1013 クボタ M7030DT用	1	0	1	B	B	
"	ボトムブラウスガノ COS1523 " "	1	0	1	B	B	
"	ディスクアブラウスター-MDP2634G " "	1	0	1	B	B	
"	ディスクハロー スター-MTH-12024B " "	1	0	1	B	B	
"	ロータリー マツヤマ MX1800NA " "	1	0	1	B	B	
"	サブソイラー " S-226 " "	1	0	1	B	B	
"	トレンチャヤー ササキ TE-121 クボタ H7030DT用	1	0	1	B	B	
"	パワーディレーラー クボタ K-120	1	0	1	B	B	

供与年度	機 材 名 (規 格・能 力)	供与数	処分数	現有数	利用状況	管理状況	処 分 理 由 等
62年	トレラー サノ SM-55・ティラー用	1	0	1	B	B	
"	ロータリー マツヤマ SX-1500NA クボタ L-245DT用	1	0	1	B	B	
"	リッジャー スター MRD3B "	1	0	1	B	B	
"	播種機 タカキタ TB-2TD "	1	0	1	B	B	
"	カルチベーター スター MCV3 "	1	0	1	B	B	
"	モア マツヤマ NFZ-1501B "	1	0	1	B	B	
"	ラウンモア スター MLC150L "	1	0	1	B	B	
"	デシゲーター アクリル FH-4	5	0	5	A	A	
"	無苗箱 いすず B0-12S	1	0	1	C	B	茎頂摘出・培地作成時に集中して使用する
"	線虫検診器 棍 NO. 229	1	0	1	B	B	
"	カメラ ニコン F-3・標準レンズ・セルフ・三脚付	1	0	1	A	A	
"	定温器 棍 NO. 211B/01	2	0	2	A	A	
"	PHメーター ホリバ H7MP	1	0	1	B	B	
"	E Cメーター DS-7 ホリバ	1	0	1	B	B	
"	電子式皿天秤 FX-300 A40 ヤマト	1	0	1	A	A	
"	電圧安定器 SVC1020 松永 220/100	1	0	1	A	A	

供与年度	機 材 名 (規 格・能 力)	供与数	処分数	現有数	利用状況	管理状況	処 分 理 由 等
62年	ワードプロセッサ キヤノワード CW-80S プリンター etc. セット	1	0	1	A	A	
"	動力噴霧機 丸山 MS5000ESK	2	0	2	A	A	
"	デシケータ アクリル HU-4 東京ガラス	4	0	4	A	A	
"	人工気象室 NK-1式 LH-200RD	4	0	4	A	A	
"	脱穀機 TSL坪刈用	1	0	1	C	B	収穫調査時に集中して使用
"	脱穀機 TS (播種用)	1	0	1	C	B	収穫調査時に集中して使用する
"	ミシン ブラザー ZZ-2-B-615	1	0	1	D	B	ネットハウス作成、サツタツ袋作成時に使用する
"	恒温発芽試験器 TCW-24 東京ガラス	1	0	1	A	A	
"	生物顕微鏡 YF-11 日本光学	2	0	2	A	A	
"	実体顕微鏡 VMZ-4SA オリンパス	3	0	3	A	A	
"	乾熱滅菌器 棍 NO. 3707 220 °C	1	0	1	B	B	
"	定温乾燥器 棍 DG-80S 220°C	1	0	1	B	B	
"	ハダニ掃落調査器 棍 NO. 209F	1	0	1	B	B	
"	蒸留水製造器 411-B型 5lit 棍	1	0	1	A	A	
"	土壌三相計 D.K-II100MII 大気理化	1	0	1	C	B	土壌調査時に集中して使用する
"	振とう恒温水槽 井内 T-225 60°C-220V	1	0	1	B	B	

供与年度	機材名(規格・能力)	供与数	処分数	現有数	利用状況	管理状況	処分理由等
62年	ベルトコンベアー SA-E 7m×475mm 東洋カネツ	1	0	1	C	B	堆肥作り・収穫時に集中して使用する
"	揚水ポンプ 東海ポンプ QP-DC-2 30m ディーゼルエンジン	2	0	2	A	A	
"	スライドプロジェクター キャビン AF-2500	1	0	1	C	B	研修コース実施の際に集中して使用する
"	オーバードプロジェクター UP-3500 エルモ	1	0	1	C	B	"
"	トラベント燃付器 TU-265 理想科学	1	0	1	C	B	"
"	8ミリカメラ 260S-XL エルモ	1	0	1	C	B	"
"	8ミリ映字機 ST-180MD 220V エルモ	1	0	1	C	B	"
63年	ラジオ無線機 yaesu-180A アンテナ車輛用2台・クオーンパッチ	3	0	3	A	A	
"	オートクレーブ UA-240MI・SKW	1	0	1	B	B	
"	種子湿度計 ケットー F2A	1	0	1	B	B	
"	地中温度計 チノン 220V	1	0	1	B	B	
"	脱穀機 101-005 Habum 20HP・40ton	1	0	1	B	B	
"	播種機 PAH-4/2800 BALDAX	1	0	1	C	B	普通栽培(試験区以外)の播種に集中して使用する
"	カッター MICRO-10MIT モーター付	1	0	1	C	B	緑肥堆肥作りの作業に集中して使用する
"	地中温度計 クオーツ式自己いすず	2	0	2	A	A	
"	精密天秤 ER-180A almy180g エアランドディー	1	0	1	A	A	

供与年度	機 材 名 (規 格・能 力)	供与数	処分数	現存数	利用状況	管理状況	処 分 理 由 等
63年	スピードスプレヤー 丸山 CBM-520B 500lit	2	0	2	A	A	
"	ブロードキャスター スター MBC-2800	1	0	1	C	B	堆肥散布時に集中して使用する
"	耕耘機 (カルチベーター) クボタ AT-70S	1	0	1	A	A	
"	" () クボタ TF-55	2	0	2	A	A	
"	種子選分機 山本 YBS-50B	1	0	1	C	B	
"	カッター スター FC18C	1	0	1	C	B	堆肥作成時に集中して使用する
"	モミスリ機 佐竹 SBS-B	1	0	1	C	B	収穫、調整時に集中して使用する
"	コンプレッサー パンザイ SP-07PC	1	0	1	A	A	
"	チーゼルセット 320型 パンザイ	1	0	1	A	A	
"	部品洗浄台 パンザイ WS-15F	1	0	1	A	A	
"	電動吸子 A-2 パンザイ	1	0	1	C	B	機械修理時に使用
"	スライド作成装置 CHROMA-PRO-45	1	0	1	A	A	
"	タイプライター ブラザー電動式 EM-601	3	0	3	A	A	
"	エンジンウエルダー デンヨー DCX180 DC 27.5 220V/60HZ	1	0	1	A	A	
"	電圧安定器 パンザイ TAD-SKY 220/220	1	0	1	A	A	
"	温度湿度調節機 ダイキン FTH45AVE	4	0	4	A	A	

供与年度	機 材 名 (規 格・能 力)	供与数	処分数	現有数	利用状況	管理状況	処 分 理 由 等
63年	単車 ヤマハ DT100 スペアタイヤ2本各1台付	3	0	3	A	A	
"	クロロフィルメーター SPAD-II (前野専携行機材)	1	0	1	A	A	
"	ECメーター " (")	1	0	1	B	B	
64年	パーソナルコンピュータ IBM PS/2 プリンター付 (明地調達)	2	0	2	A	A	

JICA